事後評価報告書

1. 基本情報

（1） 実行団体名
認定 NPO 法人オーシャンファミリー
（2） 実行団体事業名
みんなの海 project　～地域のすべての子に海での楽しい体験を～
（3） 資金分配団体名
公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団
（4） 資金分配団体事業名
障害児等の体験格差解消事業
（5） 事業の種類
草の根活動支援事業
（6） 実施期間
2020 年 5 月　～　2023 年 3 月
（7） 事業対象地域
神奈川県三浦郡葉山町、逗子市、鎌倉市、横須賀市

2. 事業概要

①事業によって解決を目指す社会課題と想定される直接対象グループ
障害児等何らかの制約により海の自然体験活動の機会が限られている子。

②事業の概要（中長期アウトカム・短期アウトカム・活動）
「中長期アウトカム」
本事業実施対象地域において、障害児等何らかの制約により海の自然体験活動の機会が限られている子達を対象に海の自然体験が推進され、海の楽しさ素晴らしさを体感する機会が増え、海を好きな子が海を守る担い手として活躍するモデル地域となることを目指す。

「短期アウトカム」
1．本事業実施対象地域において、障害児等何らかの制約で機会が限られてきた子達が海の自然体験を通じて、海を好きな状態になる。
2．本事業対象地域において、海の自然体験の価値が高まり、助成金がなくとも事業を継続できる状態になる。
3．本事業対象地域において、当団体のサポートで海の自然体験を実施した学校団体が自ら

行う機会が増加した状態になる。

「活動」
・障害児等対象者を当団体が主催する年間スクールで受け入れる。
・対象者が個人で参加できる体験会を実施する。
・対象者が所属する団体の体験会を実施する。
・休眠預金等からの助成により、海の自然体験に必要な器材等を整備する。
・当団体で、ボランティアスタッフなどの外部サポーターの募集等を行うともに当団体で必要に応じ研修等を行う。
・当団体および資金分配団体により、障害児等の海の自然体験に関する実施事例・先進事例を広く社会に発信する。
・当団体および資金分配団体が、海の自然体験に参加した子供に対し、事業の満足度や意識の変容等に関するアンケートおよびヒアリング調査を行う。
・海の自然体験につながる活動を、必要に応じてオンラインで実施する。
・年間スクールにおいて、夏季以外の活動プログラムを充実する。
・オンラインプログラムの実施に必要な器材を整備する。
・当団体で、障害児等対象者の保護者に対し、海の自然体験事業に関する広報活動を行う。
・当団体および資金分配団体で、海の自然体験に参加した保護者に対し、事業の満足度や意識の変容等に関するアンケートおよびヒアリング調査を行う。
・当団体および資金分配団体が、海の自然体験に協力した団体等の支援内容を広めるため、事業と併せて広報活動を行う。
・当団体で、障害児支援施設等のスタッフに対し、海の自然体験事業に関する広報活動を行う。
・当団体および資金分配団体で、海の自然体験に参加したスタッフに対し、事業の満足度や意識の変容等に関するアンケートおよびヒアリング調査を行う。
・当団体および資金分配団体が、海の自然体験に協力した団体等の支援内容を広めるための広報活動を行う。
・当団体で、学校や団体等に対し、海の自然体験の協力等に関する広報活動を行う。
・当団体で、必要に応じ学校や団体等に対する訪問説明やフィールド案内を行う。
・新型コロナウイルスの感染防止策として、必要に応じてオンラインで実施する。

③出口戦略
・参加費を徴収しての本事業を継続実施
・当法人施設をビジターセンターとして開放し、海洋活動終了後のシャワーや着替え場所の提供、ライフジャケット等の貸し出しを行うなど体験者へのサポート支援の実施

3. 事後評価実施概要

（1） 実施概要

①どんな変化をこの事業の重要なポイントとして設定し評価を実施したのか

海を好きになったかどうか

②どんな調査で測定したのか

1）調査方法

・アンケート調査

2）調査実施時期

・2020 年 7 月～2022 年 10 月

3）調査対象者

・体験会参加団体である放課後等デイサービス事業所「スタジオみらい」の利用者と保護者、スタッフ

4）分析方法

・調査から得られたエピソードをディスカッションにより分析した。

③調査結果をどのように深掘りし価値判断をしたのか

調査を実施して頂いた神奈川大学人間科学部の渡部かなえ教授を中心としてディスカッションを行い、価値判断を行った。

（2） 実施体制（内部/外部、評価担当役割、氏名、団体・役職）

内部、堀龍太、認定 NPO 法人オーシャンファミリー副代表理事

内部、海野佳子、認定 NPO 法人オーシャンファミリー職員

内部、田中幸太郎、認定 NPO 法人オーシャンファミリー職員

外部、渡部かなえ、神奈川大学人間科学部教授

4. 事業の実績

4 - 1 インプット（主要なものを記載）

（1） 人材（主に活動していたメンバーの人数や役割など）

内部：合計５人（自然体験活動指導スタッフ４人、経理担当１人）　外部：合計２人（評価アドバイザー１人、発達障害専門家１人）

（2） 資機材（主要なもの）

カヤック・ニッパーボード・ライフジャケット・タープテント・パソコン等

（３） 経費実績　助成金の合計（円）

① 契約当初の計画金額

3,250,000 円

② 実際に投入した金額

4,900,000 円

（４） 自己資金（円）

① 契約当初の自己資金の計画金額

770,000 円

② 実際に投入した自己資金の金額と種類

770,000 円

③ 資金調達で工夫した点

他の主催事業の利益を確保した。また、認定 NPO 法人として寄付を募った。

４-２活動とアウトプットの実績

（１） 主な活動

・障害児等対象者を当団体が主催する年間スクールで受け入れる。
・対象者が個人で参加できる体験会を実施する。
・対象者が所属する団体の体験会を実施する。

（２） アウトプットの実績

【アウトプットに関する記載項目】

① アウトプット

１．本事業実施対象地域において、障害児等何らかの制約で機会が限られてきた子達が海の自然体験に参加できる状態になる。

２．障害児等何らかの制約で機会が限られてきた子達が海の自然体験につながる活動プログラムに参加できる状態になる。

３．障害児等何らかの制約で機会が限られてきた子達と接する指導スタッフが海の自然体験の有効性を認識している状態になる。

４．障害児等何らかの制約で機会が限られてきた子達と接する障害児施設等のスタッフが海の自然体験の有効性を認識している状態になる。

５．新型コロナウイルス感染症対策を講じたことにより、参加者・スタッフが安全に水辺の体験活動に参加できる状態となる。

② 指標

１．海の自然体験に参加した対象となる子どもの数

２．海の自然体験につながるオンラインや夏季以外の活動プログラムに参加した子どもの数

３．海の自然体験を見学した指導スタッフの数
４．海の自然体験を見学した障害児施設等のスタッフの数
５．器材等の拡充及び必要な人材を確保することで三密対策等の安全対策を講じた事業が実施できている状態

③ 初期値
１．地域全体で０人
２．地域全体で０人
３．地域全体で０人
４．地域全体で５事業者
５．新型コロナウイルス感染症予防策を講じた新たな事業が実施できていない状態

④ 目標値
１．地域全体で 70 人（年間延べ 200 人）
２．地域全体で 10 人
３．地域全体で 50 人（年間延べ 200 人）
４．地域全体で 100 人（年間延べ 250 人）
５．新型コロナウイルス感染症の十分な安全対策を講じた新たな事業を実施している状態

⑤ 目標達成時期（事業計画書に記載した時期）
１．2023 年 2 月
２．2022 年 8 月
３．2023 年 2 月
４．2023 年 2 月
５．2021 年 9 月

アウトプット	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期
１．本事業実施対象地域において、障害児等何らかの制約で機会が限られてきた子達が海の自然体験に参加できる状態になる。	海の自然体験に参加した対象となる子どもの数	地域全体で０人	地域全体で70人（年間延べ200人）	2023年2月
２．障害児等何らかの制約で機会が限られてきた子達が海の自然体験につながる活動プログラムに参加できる状態になる。	海の自然体験につながるオンラインや夏季以外の活動プログラムに参加した子どもの数	地域全体で０人	地域全体で10人	2021年8月
３．障害児等何らかの制約で機会が限られてきた子達と接する指導スタッフが海の自然体験の有効性を認識している状態になる。	海の自然体験を見学した指導スタッフの数	地域全体で０人	地域全体で50人（年間延べ200人）	2023年2月
４．障害児等何らかの制約で機会が限られてきた子達と接する障害児施設等のスタッフが海の自然体験の有効性を認識している状態になる。	海の自然体験を見学した障害児施設等のスタッフの数	地域全体で５事業者	地域全体で100人（年間延べ250人）	2023年2月
５．新型コロナウイルス感染症対策を講じたことにより、参加者・スタッフが安全に水辺の体験活動に参加できる状態となる。	器材等の拡充及び必要な人材を確保することで三密対策等の安全対策を講じた事業が実施できている状態	新型コロナウイルス感染症予防策を講じた新たな事業が実施できていない状態	新型コロナウイルス感染症の十分な安全対策を講じた新たな事業を実施している状態	2021年9月

⑥ 実績値

1．189 人（延べ 679 人）

2．28 人（延べ 49 人）

3．307 人（延べ 952 人）

4．114 人（延べ 220 人）

5．新型コロナウイルス感染症の十分な安全対策を講じた新たな事業を実施している状態

4 - 3 外部との連携の実績

・3 年間にわたって体験会に参加して頂いた「スタジオみらい」さんとは、事前にリモートを中心として打ち合わせを行い、職員研修を実施した上で体験会を行った。事前に当日使用するライフジャケットを施設に持ち帰って頂き職員の方も参加者の方も当日をスムーズに迎えられるようにした。

・2 年間にわたって体験会に参加して頂いた「ヒミツキチ森学園」さんとは、事前に対面で打ち合わせを行い、職員研修を実施した上で体験会を行った。

5. アウトカムの分析

5－1. アウトカムの達成度

（1）短期アウトカムの計画と実績

【短期アウトカムに関する記載項目】

① 短期アウトカム

1．本事業実施対象地域において、障害児等何らかの制約で機会が限られてきた子達が海辺の自然体験を通じて、海を好きな状態になる。

2．本事業対象地域において、海辺の自然体験の価値が高まり、助成金がなくとも事業を継続できる状態になる。

3．本事業対象地域において、当団体のサポートで海辺の自然体験を実施した学校団体が自ら行う機会が増加した状態になる。

② 指標

1．①海辺の自然体験に継続して参加を希望する障害児等の人数

②海が好きか、また親しみを感じるかなど、意識・行動の変容の向上率

2．本事業を通じた収入の増加

3．本事業で連携した学校団体が自主開催した海辺の自然体験の数

③ 初期値／初期状態

1．①継続参加を希望する子の人数（１０人）
　②海が好きか、また親しみを感じるかなど、意識・行動（０人）

2．他の事業の収入で補っている状態

3．地域全体で０回

④ 目標値／目標状態

1．①子供の継続参加に対する意識（エンドライン調査を行いベースラインと比較する）
　②海が好きか、また親しみを感じるかなど、意識・行動（　　〃　　）

2．当事業の収入で運営が成り立っている状態

3．地域全体で５回

⑤ 目標達成時期

1．2023 年 2 月

2．2023 年 2 月

3．2023 年 2 月

短期アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期
1．本事業実施対象地域において、障害児等何らかの制約で機会が限られてきた子達が海辺の自然体験を通じて、海を好きな状態になる。	①海辺の自然体験に継続して参加を希望する障害児等の人数 ②海が好きか、また親しみを感じるかなど、意識・行動の変容の向上率	①子どもの継続参加に対する意識（ベースライン調査） "①継続参加を希望する子の人数（１０人）	①子供の継続参加に対する意識（エンドライン調査を行いベースラインと比較する） ②海が好きか、また親しみを感じる	2023年2月
2．本事業対象地域において、海辺の自然体験の価値が高まり、助成金がなくとも事業を継続できる状態になる。	本事業を通じた収入の増加	他の事業の収入で補っている状態	当事業の収入で運営が成り立っている状態	2023年2月
3．本事業対象地域において、当団体のサポートで海辺の自然体験を実施した学校団体が自ら行う機会が増加した状態になる。	本事業で連携した学校団体が自主開催した海辺の自然体験の数	地域全体で0回	地域全体で5回	2023年2月

⑦ アウトカム発現状況（実績）

1．①ほぼ全員が希望している状態
　②ほぼ全員が海が好きだったり、親しみを感じている状態

2．当事業の収入でほぼ運営が成り立っている状態

3．地域全体で３回

⑧ 事前評価時の短期アウトカム（変更した場合は元の短期アウトカムを記載してください）

（２）アウトカム達成度についての評価

※複数のアウトカムの達成度を踏まえ、取りまとめ総合的に評価した内容を記載してください。

全体として概ね肯定的な評価を得られるのではないだろうか。3 年間の事業を通じて 189 人（延べ 679 人）

の子ども達に海での体験の機会を提供することが出来、ほぼすべての子が参加前よりも海に親しみを感じるようになった。また、参加した子ども達の様子から保護者や施設スタッフの方々もこの事業の価値を十分に感じ、結果としてこの事業の収入で運営できる状態になった。アウトカムの 3 つ目として設定した自主開催については目標に到達することができなかったが、確実にその流れはつくることができている。

5－2. 波及効果（想定外、波及的・副次的効果）

◆当事業を対象とした論文が受賞

神奈川大学人間科学部の渡部かなえ教授に、発達障害・知的障害児の体験格差解消事業の意義と成果を検証して頂き、その論文が APIAR 学会・OCMAR-2021 教育学分野の最優秀論文賞（Best Pape in Education）を受賞された。

◆子ども達の兄妹への波及的効果

保護者の方のアンケートで、「兄がいるのですが、兄も楽しそうだから行きたいと言っていて、来年は兄弟で参加するか？！と仲良く話していた」との回答を頂いた。参加者本人が楽しい体験をしたことで、その兄妹が海を体験するきっかけになるという波及的効果があった。

5－3. 事業の効率性　※補足資料参照

助成して頂いた資金を、活動を実施していくために無駄なく使うことが出来た。特に、コロナの影響を受けて主催事業の収入が不安な中で、人件費の一部を賄うことができ、活動を継続することができた。また、コロナ追加助成で購入した PC によってリモート会議が円滑に行うことができたり、シーカヤックの艇を追加で購入したことで密にならずに海での活動を行うことができたりと大変有効に活用させて頂いた。

6. 成功要因・課題

体験格差解消事業として、体験の機会を創出してきたが、その結果としてほぼすべての子ども達が海を好きになってくれたのは大きな成果だったと言えるだろう。要因としては、当団体が設立以来「海は楽しい、海は素晴らしい、そして海は大切だ」というのを大事にしてきたことが大きいだろう。課題としては、保護者アンケート結果からは、保護者だけで子どもを連れて行く大変さ、抵抗感はまだ強く体験会に参加するのではなく自ら体験するという段階にはまだ至っていないことが挙げられる。

7. 結論

8-1 事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

	多くの改善の	想定した水準	想定した水準	想定した水準	想定した水準

	余地がある	までに少し改善点がある	にあるが一部改善点がある	にある	以上にある
（1）事業実施プロセス				○	
（2）事業成果の達成度				○	

（1）、（2）それぞれ１箇所を選択する。

8-2 事業実施の妥当性

「課題やニーズの適切性」

海での体験の機会が限られているということは、アンケートを通しても実感することが出来た。

「課題やニーズに対する事業設計の整合性」

事業設計としては、２つの柱を立てて行った。「通年スクールへの受け入れ」、「体験会の実施」。

人数は限られてしまうが、通年スクールへ受け入れることで、より深い体験の機会を提供することができた。また、体験会については団体向けと個人向けそれぞれで行った。同じ団体と複数回行うことで、お互いに理解度が増して、円滑に行うことが出来た。また、団体によって目的とすることは異なるので、それぞれのニーズに応じた内容で行うことが出来た。

「実施状況の適切性」

通年スクールは 3 年間を通して継続して実施することが出来た。体験会については、2020 年度は団体 3 回、個人 1 回、2021 年度は団体 7 回、個人 2 回、2022 年度は団体 6 回、個人 2 回と実施することが出来た。

「成果の達成状況」

アウトプット 5 項目のうち、全て目標達成。短期アウトカム 3 項目のうち、2 つ目標達成。以上から、概ね成果は達成できたと評価できる。

8. 提言

申請時に中長期アウトカムとして設定した、当事業を通じて海の楽しさ素晴らしさを感じた子ども達がこの地球環境を守る次世代として育っていくために、今後も継続して体験格差解消のための取り組みを続けていくことが重要だと認識している。共に活動団体として 3 年間取り組んできた団体はもちろん、同じ想いを持つ他の団体とも連携して、多くの人が自然と触れる体験の機会を増やしていけるよう、共に取り組んでいきたい。

当団体としては、体験会に参加する機会を増やすだけでなく、参加した方が自ら体験していけるよう、安全管理の考え方についての勉強会や講習会の実施、また器材のレンタルやスタッフの派遣などに力を入れていきたいと考えている。

9. 知見・教訓

・通常の活動の事務に加え、休眠預金事業の事務のボリュームが大きく、非常に負担になった。ついては、JANPIA が事務のサポート体制の仕組みを考えていただくと NPO などにはメリットがあると思われる。